

アジア欧州会合（A S E M）第1回外相会合議長声明

1997年2月15日、於シンガポール

（仮訳）

1. アジア欧州会合（以下A S E M）外相会合は1997年2月15日、シンガポールにおいて開催された。参加者のリストは別添のとおりである。
2. 各国外相は、各国首脳が第1回A S E M首脳会合は歴史的かつ重要な会合であり、アジア欧州両地域のみならず、世界全体にも利益をもたらすパートナーシップと協力の新しい時代の幕開けとなるものであると述べたことを想起した。各国外相は、各国首脳によって形成された新たな包括的な「更なる成長のためのアジア欧州パートナーシップ」へのコミットメントを再確認した。
3. 各国外相は、A S E Mのフォロー・アップ活動のレビュー・ペーパーを検討し、第1回A S E M首脳会合（A S E M I）以降、比較的短い期間に、A S E Mの協力が多くの分野で実質的に進展したことを満足を持って留意した。具体的なプログラムについても確認された。経済分野における協力は迅速に進展しており、より緊密な政治対話のための基礎が築かれた。各国外相は、A S E Mプロセスにおける協力のモメンタムは維持・強化されるべきであるとした。
4. 各国外相は、世界及び地域の新たな課題に関するアジア欧州協力について議論した。各国外相は、世界はますます多極化の様相を呈しており、世界的統合の動きは、国家の経済をより一層相互依存的なものにしていることを認めた。各国外相は、テロリズム、麻薬取引及び環境破壊のような新たな地球規模の問題には世界的な対応が必要であることで一致し、また、地域統合は世界の多くの地域において急速に進展しており、経済及び安全保障の問題への地域的取組を促進していることにも留意した。各国外相は、新たな課題に対する地域的・世界的取組を相互に強化することの重要性を強調した。

5. 各国外相は、A S E Mで行われるべき政治・安保対話の性格について意見交換を行った。各国外相は、政治対話は共通の関心事項について議論することから始め、将来徐々に対話の議題を広げていくことに合意した。各国外相は、A S E M首脳が「政治対話は共通の基盤に注目し、それを拡大し、理解と友好を増進し、協力を推進及び深化させていくべきである」と決定したことを想起した。シンガポールでの議論は、アジアと欧州における地域協力や国際問題などのいくつかの共通の関心事項について行われた。各国外相は新国連事務総長及び同事務総長の国連改革への努力を支持することを表明した。
6. 各国外相は、各国首脳が両地域間の経済関係の拡大が両地域の強固なパートナーシップの基盤となっていることを認識したことを想記し、アジアと欧州の協力強化の重要性を強調した。各国外相は、両地域の国民の利益のためには、アジア欧州ビジネス・フォーラムやアジア欧州ビジネス会議など経済面の協力の新たなプログラムにおいて、民間セクターがより大きな役割を果たす必要があることに留意した。特に、各国外相は、これらのプログラムにより多くの中小企業が参加することを要請した。アジアと欧州のパートナーシップは、市場経済、開かれた多角的貿易体制、無差別の自由化、及び開かれた地域主義に対する共通のコミットメントに基づくべきである。本会合では、いかなる地域統合及び地域協力も、W T O整合的、且つ外向きであるべきことが強調された。
7. 各国外相は、アジア欧州協力は多面的であり、経済、政治、文化、教育及び科学技術を含む人間の努力の全ての分野を包括すべきであることを強調し、タイのアジア欧州環境技術センター設立に向けての進展に留意した。各国外相は、両地域間の一層の相互理解にとって、より緊密な人的交流が不可欠であることを強調し、共同の文化的イニシアティブの発展及び欧州とアジアの文化のよりよい理解のための具体的なステップを促進するため、文化活動担当の管理職及び幹部の会合を開催するとの仏の意図表明を歓迎した。

8. 各国外相は、シンガポールにおけるアジア欧州財団（A S E F）の設立を歓迎する宣言を採択し、同財団の設立式に参加した。多くのA S E MメンバーがA S E Fへの貢献を表明した。各国外相は、A S E F理事会の第1回会合が1997年2月17日にシンガポールにおいて開催されることに留意した。
9. 各国外相は、A S E Mの活動が長期的に秩序と調和を保った発展を遂げることが重要であることを確認し、合意された分野におけるA S E Mの協力の原則やメカニズムの枠組みを明らかにするアジア欧州協力フレームワークを早期に具体化することを検討することに合意した。各国外相は、A S E Mプロセスを21世紀に向け発展させるためのアイデアを提供するため、1998年の第2回A S E Mにおいてアジア欧州ヴィジョン・グループを設置することを支持した。
10. 各国外相は、第2回A S E Mが1998年4月にロンドンにおいて開催されることに留意し、また、第2回A S E M外相会合が1999年前半にドイツにおいて開催されることに合意した。

参 加 者 リ ス ト

1. ジャヤクマール閣下 議長
シンガポール共和国外務大臣
2. ヴォルフガング・シュッセル閣下
オーストリア共和国外務大臣
3. エリック・デレイケ閣下
ベルギー王国外務大臣
4. モハメッド・ボルキア閣下
ブルネイ・ダルサラーム国外務大臣
5. 銭其琛閣下
中華人民共和国外交部長
6. ニールス・ヘルベイ・ピーターセン閣下
デンマーク王国外務大臣
7. マヌエル・マリン閣下
欧州委員会副委員長
8. タルヤ・ハロネン閣下
フィンランド共和国外務大臣
9. エルベ・ドゥ・シャレット閣下
フランス共和国外務大臣
10. クラウス・キンケル閣下
ドイツ連邦共和国外務大臣
11. セオドロス・バンガロス閣下
ギリシャ共和国外務大臣
12. アリ・アラタス閣下
インドネシア共和国外務大臣
13. ディック・スプリング閣下
アイルランド外務大臣
14. ランベルト・ディーニ閣下
イタリア共和国外務大臣

15. 池田行彦閣下
日本国外務大臣
16. 柳宗夏閣下
大韓民国外務部長官
17. ジャック・ポース閣下
ルクセンブルグ大公国外務大臣
18. アブドゥラ・バダウィ閣下
マレーシア外務大臣
19. ファン・ミールロー閣下
オランダ王国外務大臣
20. ドミンゴ・シアゾン閣下
フィリピン共和国外務長官
21. ジャイメ・ガマ閣下
ポルトガル共和国外務大臣
22. アベル・マトゥーテス・ファン閣下
スペイン外務大臣
23. レナ・イエルクムヴァレーン閣下
スウェーデン王国外務大臣
24. プラチュアップ・チャイヤサーン閣下
タイ王国外務大臣
25. マルコム・リフキンド閣下
グレートブリテン及び北部アイルランド連合王国（英国）外務大臣
26. グエン・マイン・カム閣下
ヴェトナム社会主義共和国外務大臣

在ペルー日本大使公邸におけるテロ行為に関する議長声明

(仮訳)

1997年2月15日のシンガポールにおけるASEM外相会合に参加した外相は、在ペルー日本大使公邸における人質事件を検討した。

1. 各国外相は、在ペルー日本大使公邸におけるテロリスト・グループによる犯罪行為を強く非難し、いかなる目的又は動機もこうした方法を正当化し得ないと考えた。

2. 各国外相は、すべての人質を例外なく即時に解放することを要求し、テロリズムに屈しないとの決意を再確認した。

3. 各国外相は、ペルー政府及び日本政府との連帯を表明するとともに、人質の生命の確保を最優先して、事態を平和的な方法により解決するための両国政府の努力を支持した。

4. 各国外相は、ペルー政府の対話者とMR TAグループの代表者と間の予備的対話の開始を歓迎した。

5. 各国外相は、国際社会の他のメンバーと全面的に協力しつつ、あらゆる形のテロリズムを非難しこれと闘う努力を強化することを決意した。

アジア欧州財団に関する外相宣言（案）仮訳

1997年2月15日

我々、アジア欧州会合の外相及び欧州委員会副委員長は、

アジア欧州財団が1996年3月1日及び2日、タイのバンコックにおいて開催されたアジア欧州会合において承認されたことを想起し、

同アジア欧州会合議長声明のパラ19において、「シンクタンク、国民及び文化団体同士の交流を促進するために、アジア及び欧州諸国からの拠出を得て、シンガポールにアジア欧州基金が設立される。この関連で、シンガポールは、同基金の原資として100万米ドルを拠出する用意がある旨を表明した。」旨明記されていることに留意し、

シンガポールにおけるアジア欧州財団の設立を歓迎し、本財団の成功を確保するため我々のコミットメントを再確認し、

1998年のアジア欧州会合に対し本財団の地位を見直すよう要請する。